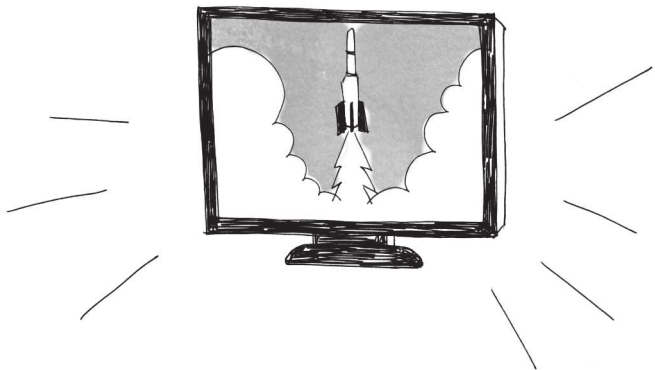


あなたはなにが好きですか。

ぼくはロケットが好きです。



小さな町工場で、

ぼくはロケットを作っています。

宇宙に飛び出す、本物のロケットです。



この世には、

よっぼど頭が良くないと、

よっぼどお金を持っていないと、

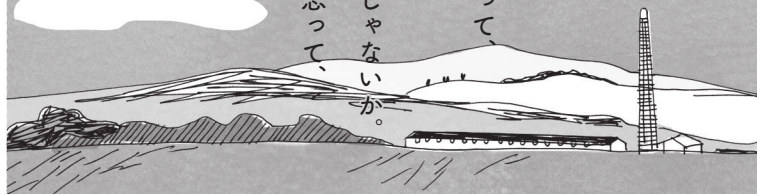
よっぼど才能とか経験がないと、

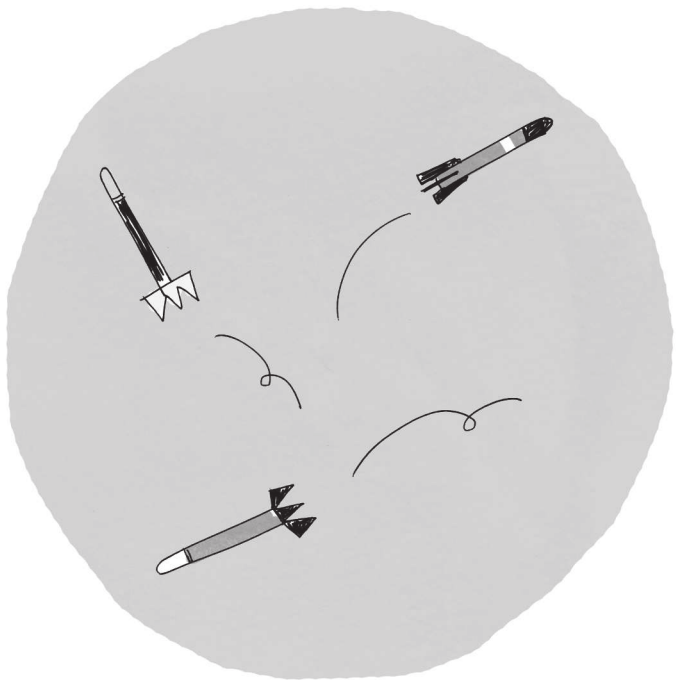
「どうせ無理だ」

といわれることがたくさんあります。



でも、あんなにちっぼけな工場の人だって、  
ロケットを飛ばせるくらいだから  
もしかしたら自分にもなにかできるんじゃないか。  
そんな風を感じてもらえたらいいなと思って、  
ぼくはロケットを作っています。





ぼくの工場には、よく子どもたちが遊びにきます。

彼らかれもたいていロケットが好きです。

だから一緒いっしょにロケットを作ってもらいます。

ただ、作り方は教えません。

わからなければ、自分で調べればいいからね。

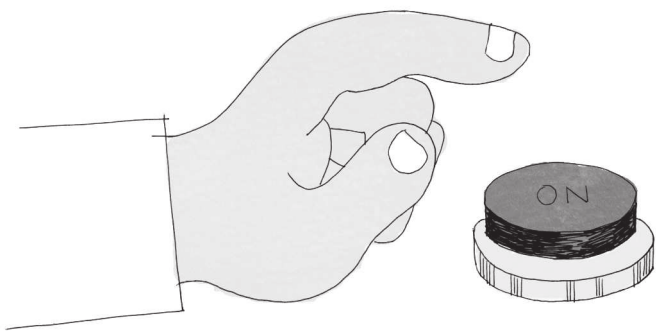
まわりのやり方を見て、真似をすればいいからね。

自分がわかったことは、みんなに教えてあげてね。

そうすれば“わからないこと”なんて、あっという間になくなるから。

そう伝えると、みんなちゃんと自分たちの手で

ロケットを完成させます。





“自分のロケット”を完成させると、みんな我先にと飛ばしたがります。

でも、ためしにぼくがロケットを飛ばしてみせると、「やっぱり飛ばしたくない」といいはじめます。

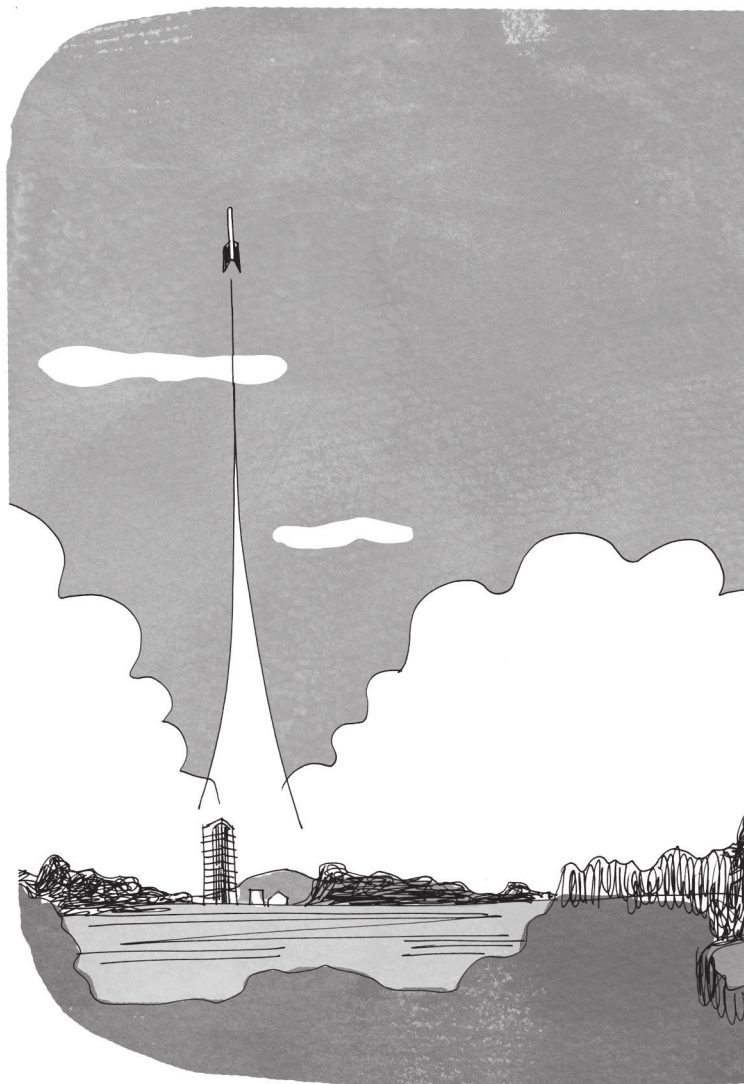
「あんなに飛ぶとは思わなかった」といいます。

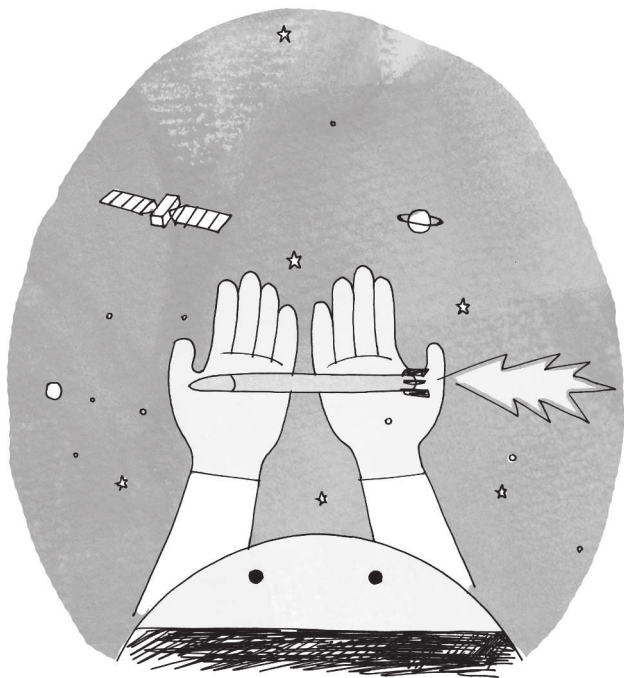
発射ボタンを押おせなくなってしまう子もいます。

“どうせ自分のやつはだめだ”って、ためらうのです。

でも、  
ロケットは飛ぶんです。







そうしたら変化が起こります。

みんな、やさしくなれるんです。

「作れない」と思っていたロケットを作れたから、

「飛ぶわけがない」と思っていたロケットを飛ばせたから、

小さな自信がわいたのです。



この小さな自信が、

これからの日本にどうしても必要なのです。





# 空 想 教 室

みなさん、こんにちは。

今日はみなさんに会えることをとても楽しみにしていました。

今からみなさんの貴重な時間を借りて、お話を聴いてもらいます。

このお話は、ぼくの仲間を探すための話です。

ぼくが「仲間が見つかったらいいな」と思っている話だから、

全然かたくるしい話じゃないです。

紙芝居かみしばいを見erみたいに気持ちを楽しにして、

話を聴いてくれたらいいなと思います。

今からみなさんにお伝えしたいことは、とっても簡単なことです。

それは

「思うは招く」

ということですよ。

これは中学生のときにぼくの母さんが教えてくれた言葉で、「思ったら、そうなるよ」という意味です。

夢があつたらなんでもできるのです。

本当です。

子どもだけではなく、もちろん大人もです。

だからみなさんには、ぜひ素敵な夢をたくさん持つてほしいなっています。

本書は、2015年11月に刊行された書籍  
『好奇心を“天職”に変える 空想教室』に一部改訂を加えた文庫版です。

IMAGINATION LESSON

# CONTENTS



## Lesson1

思い描く。

01

もう一度、「自分の夢ってなんだろう？」と考える。

028

02

「すでにできること」ではなく  
「まだできないこと」をはじめてみる。

037

03

はじめから人にまかせず、まずは自分で試してみる。

043

04

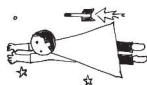
今の時代の「ラッキー」から、作り出せるものを考える。

051

05

なくなるお金ではなく、なくならない知識をためる。

058



## Lesson2

### 思い込む。

06

プレッシャーを感じる役割を、すすんで引き受けてみる。

070

07

他の人がやっていないことを、自分からためししてみる。

076

08

うまくいかなかったとき、「だったらこうしたら？」を考える。

084

09

「これまで」を見ないで、「これから」のことを決める。

091

10

いたずら心を出して、余計なことをやってみる。

097



## Lesson3

思いやる。

11 素直さや真面目さより、「自分の考え」を優先する。

108

12 「気が合う人」よりも、「経験がある人」に相談する。

113

13 何冊も伝記を読んで、ヒーローたちを真似る。

119

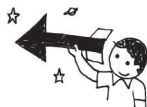
14 「自分と違うタイプの人」に、自分から心を開いてみる。

125

15 定期的に「いまからやりたいこと」を考える。

131





## Lesson4

思い切る。

16

「楽そうな方」ではなく「楽しそうな方」を選ぶ。

\_\_\_\_\_

138

17

いやなことを見つけたら、なぜいやなのかを考える。

\_\_\_\_\_

144

18

目の前の仕事だけではなく、次の仕事も同時にはじめる。

\_\_\_\_\_

152

19

「ちゃんとしている」ふりをせず、「自分の弱み」を見せる。

\_\_\_\_\_

158

20

好きなことは「やめろ」と言われても続ける。

\_\_\_\_\_

167

21

「どうせ無理」と戦つ。

\_\_\_\_\_

177



The Last  
Lesson



Lesson5

お  
わ  
り  
に  
。

223

24

否定されても、怒らず聞き流す。

217

23

中途半端になってもいいから、  
好きなことにはいくつも手を出す。

208

22

「なにになりたいか」ではなく  
「なにをやりたいか」を考える。

198

思  
い  
続  
け  
る  
。



Imagination Lesson

## Lesson1

思い描く。

Imagine



Imagination Lesson

# 01

もう一度、  
「自分の夢ってなんだろう？」  
と考える。

「あなたの夢はなんでしょうか？」

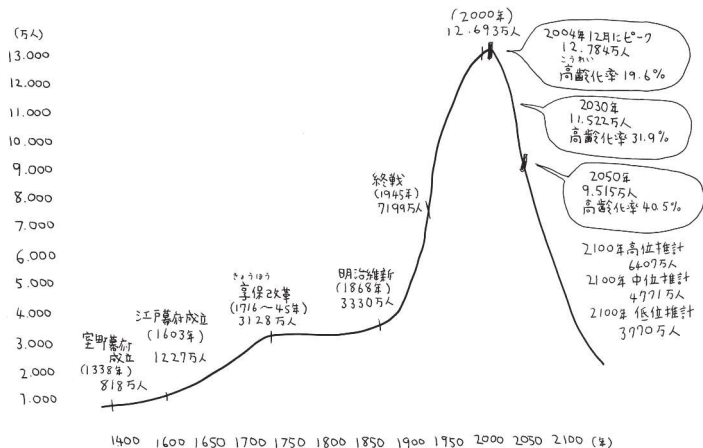
ありきたりな質問だと思っただけでしょうか。

今さら夢なんて、と恥はずかしく感じた人もいるでしょうか。

でもこれからは、夢がない人は生きていけなくなるかもしれないかもしれません。

なぜなら今、とても大変なことが起こっているからです。

目の前に大きな壁かべが迫せまっているのです。



これは日本の人口のグラフです。日本の人口は今までずっと増え続けてきました。とくに明治維新を境に、その後とんでもない勢いで増えています。

ところが2004年の12月から、これまでとんでもない勢いで減っています。つまりぼくたちは人口のピークをむかえ、その後、急激に減りはじめた斜面をたった今、下っているわけです。

過去に、この下り坂を経験した日本人はいません。だから人口のピークより後、人口が減り続ける社会では、なにが起こるか誰にも予測できません。

少なくとも、上の世代がいうところの「若い頃は」「昔は」「普通は」という常識は一

出典) 総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

切通用しないでしよう。まったく新しい、はじめての時代をぼくたちは生きているのです。

人口が急に減った国では大変なことが起こります。

たとえば「お店の売上」は落ち続けます。「お店の売上」が、お客さんの数と比例するのは当たり前のことですからね。

お店だけではありません。まともに考えたら「経済がプラス成長する」とか「給料が毎年増える」ということは難しそうです。

今までの日本はそうではありませんでした。“すなお”で“まじめ”に仕事をがんばっていけば、毎年、給料がちよつとずつ増えました。

多くの人は、それは当然のことだと思っていたでしょう。

でもそれはたまたま、「人口が増え続けていたから」なのかもしれません。これからはどんどん人口が減っていきます。

だとすれば、会社に入ってすぐの初任給が最高で、あとは毎年給料が下がっていくということになります。そんなことがもう現実に起こりはじめて

います。

では、お先は真つ暗なんですか？

いいえ。そのかわり、こんな時代だからこそ「夢が大切だ」といわれます。「夢」というのはよく聞く言葉です。よく聞く言葉だからこそ、大人は軽く考えてしまいがちです。

でも夢は必要です。

もう一度ききます。

あなたの夢はなんですか？　そもそも「夢」っていったいなんなのですか？

これからみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

ぼくは先ほど「これから先の日本は、給料が毎年下がるような国になるかも」と縁起でもない話をしました。

でも実は全然大丈夫なんです。

ちよつと難しい言葉になりますが、日本の「単位労働時間あたりのGDP」



は、フランスの半分くらいしかないからです。

どういうことだかおわかりになりますか？

同じ時間働いたとしても、日本人が生み出すものは、フランス人の半分くらいしかないということです。

日本人はどれだけ効率の悪い仕事をさせられているのでしょうか。

つまり、まだいくらでも改善できるということです。

日本は2倍の経済成長ができるかもしれないし、それはもしかしたら世界を救うチカラになるかもしれません。

そのためには間違いなく、みなさん一人ひとりの能力の向上が必要です。

そして能力の向上のためには、夢が必要です。

だからみなさんには、素敵な夢をたくさん持ってほしいのです。

夢について、もうみなさんは知っています。

“あきらめなければ、夢は叶う”

すばらしい言葉です。本当のことだと思えます。

でもその言葉の裏にはとんでもない副作用がありました。

それは「夢が叶わなかったのは、あきらめた自分が悪いんだろう」ということです。

あきらめた自分のことを責めている。そんな人を、ぼくはたくさん知っています。

でも自分を責める必要なんてありません。なぜなら日本が変だからです。

「夢」という言葉について調べてみたところ、アメリカの辞書には〈夢とは……強く願い、努力すれば実現できるもの〉と書かれていました。

ところが、日本の辞書には〈夢とは……はかないもの。叶わないもの〉と書かれていました。

実際、日本人には「あきらめた」んじゃなくて、「あきらめさせられた」人の方が圧倒的に多いのです。

